

## 令和6年5月定例記者会見

日 時: 令和6年5月31日(金)13:30～

場 所: 本学事務局3階第1会議室

内 容:

1. 裁判官として日本で最初に育休を取得した平野哲郎氏講演会(男性育休促進セミナー)について

(学長補佐(男女共同参画担当) 高口 僚太郎)

2. 女子学生だけのネットワーク「長岡技術科学大学フィーカ」について

(学長補佐(男女共同参画担当) 高口 僚太郎)

3. ボランティア同好会「VOLT of NUTS」の能登半島地震 災害ボランティア活動報告

(工学部生物機能工学課程4年 鈴木 駿太)

以 上

報道資料

令和6年5月31日

報道機関各位

長岡技術科学大学  
学長補佐(男女共同参画担当) 高口 僚太郎

**裁判官として日本で最初に育休を取得した平野哲郎氏講演会  
(男性育休促進セミナー)について**

本学と大阪大学が主催、長岡工業高等専門学校と株式会社イトラストが共催し、長岡市、長岡商工会議所、三条市、長岡技術科学大学協力会、長岡造形大学が後援する本講演会は、2019年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」に選定された事業の一環で実施するものです。

この度、裁判官として日本で最初に育休を取得した平野哲郎氏が、その後どのような境遇に直面したのか、男性育休促進において大切なことは何かをテーマに講演会を開催します。

平野哲郎氏は、東京大学法学部を卒業後、横浜地裁、大阪地裁などの大都市圏で裁判官として勤務しておられました。平野氏が男性裁判官初の育休を取得されたのは2001年です。「男性裁判官初」と言えば聞こえは良いですが、実際は、育休を取得したことが理由となり、裁判官としてのキャリア形成が困難になってしまわれました。男性に限らず、育休を取得するには周囲の理解が必要であると言いますが、特に、管理職はどのようなことに気をつけなければならないのか、「周囲の理解」とはそもそも何であるべきかについてお話しいただきます。

人口減少、高齢社会である地方都市の産業を維持発展させるためにも、多様な人々が能力を発揮して学び、働き、研究ができる社会が求められています。育休という社会課題にどう取り組むべきかをともに考える機会といたします。

日時:2024年6月14日(金)13:30-15:00

形式:対面とオンラインによるハイブリッド形式

場所:長岡技術科学大学マルチメディアシステム棟会議室及びZoom

対象:連携・協力機関、教職員、学生

テーマ:「私は男性の裁判官として、日本で最初に育休を取得しました。」

講師:立命館大学教授・弁護士 平野 哲郎 氏

主催:長岡技術科学大学男女共同参画推進室、大阪大学ダイバーシティ&インクルージョンセンター

共催:長岡工業高等専門学校、株式会社イトラスト

後援:長岡市、長岡商工会議所、三条市、長岡技術科学大学協力会、長岡造形大学

参加のお申込みや詳細はチラシをご覧ください。

私は男性の裁判官として、



日本で最初に育休を取得しました。

令和 6 年 6 月 14 日 金  
13:30 ~ 15:00

対面とオンライン（Zoom）によるハイブリッド形式

対面会場 長岡技術科学大学 マルチメディアシステム棟 会議室  
対象者 連携協力機関及び共催・後援機関に所属する管理職、教職員・社員  
お申し込み 6月7日(金)までに以下QRコードから、または以下のアドレス宛に  
氏名、ご所属、連絡先等を記載の上、メールにてお申し込みください。

長岡技術科学大学 男女共同参画推進室 [danjo@jcom.nagaokaut.ac.jp](mailto:danjo@jcom.nagaokaut.ac.jp)



講師 平野 哲郎氏  
立命館大学法科大学院教授・弁護士

東京大学法学部卒業。裁判官として横浜地裁、大阪地裁などに勤務し男性として初の育児休業を取得。龍谷大学で教鞭をとったのち、現在は立命館大学法科大学院教授、弁護士（きっかわ法律事務所）を務める。

お申込フォームは  
[こちら](#)



報道資料

令和6年5月31日

報道機関各位

長岡技術科学大学  
学長補佐(男女共同参画担当) 高口 僚太郎

### 女子学生だけのネットワーク 「長岡技術科学大学フィーカ」について

全国には「女子学部生・女子大学院生だけで組織されている団体」というものがあります。「東北大学サイエンス・エンジェル」、「名古屋大学あかりんご隊」、「中央大学ワイズ」などです。

この度、本学にも、今年4月から「長岡技術科学大学フィーカ」という団体ことができました。フィーカは、サークルというわけではなく、学生と教職員とによって構成されている団体です。

活動内容は、ゆるく集まったり、集まるわけでもなくちょっとお喋りをしたり、とにかく「長岡技術科学大学にも女子の先輩・同輩・後輩がいるなあ」ということを知ってもらうことにあります。そしてこのことが、女子学生たちにとって、安全に安心して学生生活をおくれるうえでの一助になるのではないかと思います。

現在、学部2年生～博士1年生の10名のメンバーがいます。専攻や分野も様々です。

長岡技術科学大学 工学部 生物機能工学課程 4年  
VOLT of NUTS 代表 鈴木 駿太

### 能登半島地震 災害ボランティア活動報告

本年1月1日に発生した令和6年能登半島地震は、石川県能登地方を中心として1500人以上の人的被害と10万棟を超える住宅被害をもたらしました。被災地ではライフラインの復旧や仮設住宅の建設なども徐々に進みつつありますが、地震から5カ月近くが経過した今も多くの爪痕が残り、被災直後から景色が変わっていないと言っても過言ではないような現状です。こうした現状の背景の1つに、ボランティア不足があります。

本学では、学生たちの被災地への想いを行動に移すべく、1月18日にボランティア同好会「VOLT of NUTS」(Volunteer Team of Nagaoka University of Technology Students, 通称:ポルナツ)を設立しました。災害ボランティアや足湯ボランティアを活動の基盤として準備を進め、輪島市方面へ向かう道路やライフラインの復旧等、未経験ながらも一定の装備を整えた学生ボランティアの受け入れ態勢が現地に整いはじめた3月末から、被災地域でのボランティア活動を開始しました。



3月29日から31日にかけて実施した初回の活動では、チーム中越のメンバーとして本学の学生7名と教員2名が活動に参加し、断水が続く輪島市内の市営住宅での足湯ボランティア、倒壊したブロック塀の撤去、被災した蔵の荷物の運搬等を行いました。また、5月3日から5日に実施した活動では、さらに多くの学生が参加を希望し、学生16名、教員3名の総勢19名が大学からの支援を受け、本学単独のチームで活動しました。現地では、発災以降、長期にわたって被災地で活動を続けられている経験豊富なボランティア団体の方々にご指導いただき、輪島市内の複数の現場で、倒壊した土蔵の瓦礫撤去、倒壊したブロック塀の撤去、倒壊家屋のからの荷物の運び出し、半壊家屋の修繕等を行いました。

今回の活動は、夏休みに少し長期的な実施を考えております。VOLT of NUTSは、今後も被災地でのボランティア活動を続けていきます。



5月の活動メンバー（輪島市鳳至町の活動現場にて）



倒壊家屋の1階事務所からの荷物運び出し（輪島市河井町）



倒壊した土蔵の瓦礫撤去 撤去前(左)と撤去後(右)（輪島市鳳至町）



市営住宅での足湯ボランティア（輪島市二勢町）

